



良寛 昭和35年頃 笠岡市立竹喬美術館蔵



柿 昭和37年 寄託品



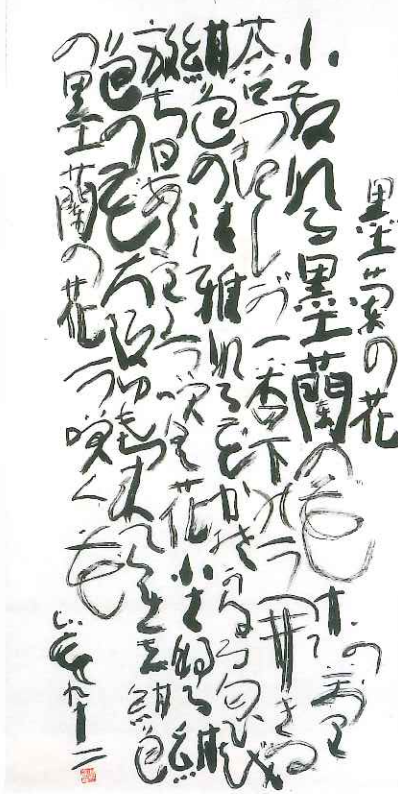
あざみ 昭和38年 笠岡市立竹喬美術館(石原晴山氏寄贈)



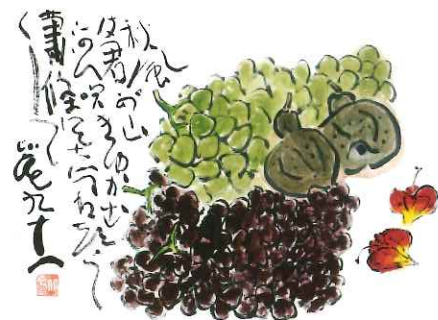
四方の紅葉 昭和48年 笠岡市立竹喬美術館蔵



南無 昭和49年 笠岡市立竹喬美術館蔵



墨蘭の花 昭和49年 ワコスポーツ・文化振興財団蔵



秋果 昭和48年 寄託品



雨の宿 昭和50年 笠岡市立竹喬美術館蔵

没後40年 清水比庵展

歌人清水比庵は、昭和50年(1975)10月24日に、数え93歳で亡くなった。今年は没後40年にあたる。

比庵は、明治16年(1883)2月8日に現在の岡山県高梁市に生れた。高梁高等小学校、高梁中学校、第六高等学校、京都帝国大学を卒業したのち、裁判官、銀行員等を経て、日光町長を務めた。独学で短歌、書、画を学び、特に短歌の領域で、万葉歌を基礎としつつ日常性を重視した歌を詠み、簡明で艶やか、そしてユーモアを交えた歌風を展開した。「毎日歌壇」と唱えた文人比庵の短歌は、主宰した歌誌「窓日」を初め、今日の短歌界に広範な影響を及ぼしている。また、歌友や知人に送った短歌を添えた絵手紙は、近年の絵手紙ブームの先達といえる。

比庵はふるさとの歌友秋田秋良氏への便りに、「小生は高梁の生れだが、墓は父母と共に笠岡に造ってをる。小生の中学卒業までは、高梁が故郷だが、それからは笠岡に父母がゐて、笠岡が故郷である。殊に少しでも人に知られてからは常に笠岡を郷里と称してゐる」と記している。すべての職を辞した比庵は東京在住であったが、亡くなるまでの間、夏季を中心に毎年笠岡に滞在した。笠岡の風光を愛し、近隣の歌友と歌を詠み、詩文や書画を好む同志との芸談に興じた。日本画家小野竹喬、洋画家小林和作とも交わり、文人同志の琴線の触れあいを、寄書きや合作に残した。

今回の記念展では、比庵の数え八十代以降の作品を中心に、心のふるさと笠岡との強いつながりを検証する。あわせて、これまであまり注目されていない比庵の長歌の魅力を伝える。没後40年を経た現代においても多くの信奉者を持つ比庵芸術、その輝きを代表作60点により、改めて探る機会としたい。

●青黄祭(開館記念日)座談会

「竹喬と比庵—ふるさと笠岡を巡って—」

10月4日(日) 14:00~15:30

講師：秋田征矢雄氏(歌人)、聞き手：上蘭四郎(当館館長)
聴講無料(ただし、入館料が必要) 申込先(0865-63-3967)

●ギャラリートーク(学芸員による)

9月13日(日)・10月18日(日) 13:30~14:30

聴講無料(ただし、入館料が必要) 申込不要

●今後の展覧会

特別陳列「山口華楊の滞欧素描と岩倉壽のエスキース」

10月31日(土)~12月6日(日)

特別展「生誕140年記念 上島鳳山と大阪の画家たち」

12月12日(土)~2016年2月7日(日)

関連館展示 高梁市歴史美術館 TEL.0866-21-0180

「没後40年 清水比庵—ふるさと春秋—」

平成27年8月29日(土)~9月21日(月・祝)

